朝日

ビルの谷間にほの白い
空があることが安らかで
夢の中なるオーボーは
揺り椅子の老人の如く

オフィスの夜明けにあやされて
肩にかぶさるひんやりとした
薄くて重いヴェールのせいか
疲れた身体が眠りを思い出す

未だ消えない街灯は
覚めやらぬ昨日という時の
かすかな名残を佇ませ
今日の夜明けを見届ける

(1985.6.9)